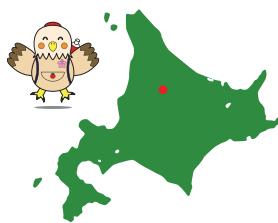


ふるさと通信

[平成30年冬号]



ふるさと通信 平成30年冬号

平成30年11月発行

発行者：鷹栖町総務企画課企画広報係

三鷹の森フェスティバル2018に
出展しました！



名前に「鷹」が付く縁で交流のある東京都三鷹市で10月21日に開催された「三鷹の森フェスティバル2018」に出展し、物産品販売やふるさとサポーター制度のPRを行いました。

物産ブースでは、「鷹栖牛のコロコロステーキ」と「エゾ鹿肉の串焼き」などの鷹栖町自慢の味覚を求める、多くの来場者で賑わいました。

ふるさとサポーター限定プレゼント

「有助安農場」のお米や加工品を、各5名計15名の方にプレゼントします。

※申込み方法等は同封の申込用紙をご覧ください



A. 越冬野菜詰め合わせ



B. 農産加工品と
お米セット



C. お米真空パック500g
5品種6点セット



▲町ホームページへ



Instagramアカウント
「takasu_attakasu」
フォローをお願いします♪
→→



【平成30年度の寄附】

件 数:2,974件
金額:39,300,000円
(H30.4~H30.10月末)

鷹栖町
ふるさと
まちづくり
応援寄附

人とともに育つ杜 パレットヒルズ



▲白色や緑色のライトで照らされた桜の幻想的な光景は、夜桜ライトアップの期間中のみ楽しむことができる

町民手づくりの杜として、四季の特長を生かした、さまざまなイベントが実施されるパレットヒルズ。春には、桜を眺めながら鷹栖牛やエゾ鹿肉に舌鼓を打つ「さくらフェスタ」や幻想的な桜を楽しむ「夜桜ライトアップ」が、夏には「押し花教室」や「星空観測会」、「写真教室」、そして冬には歩くスキーや雪上カヌー体験イベントなどが行われ、町内外から多くの方が参加しています。



▲参加者はひとつひとつ丁寧にハーブを植えた

10月には植樹祭が行われ、66人が参加。今年から設けた「キッチンガーデン」に、アップルミントやチャイナップなど5種250ポットのほか、ハスカッブなどの低木38本を植えました。昨年から植樹を開始した「手づくりガーデン」には、エゾヤマザクラやアカエゾマツなど10種184本の苗木を植樹し、参加者は心地良い汗を流しました。これから多くの人の手によって、パレットヒルズは彩られていきます。

自然とともに
親も子も育ち合える場

森のようちえん ぴっぴら
代表 松下 理香子さん

自然とともに親も子も育ち合える場

森のようちえんは、自然の中で人と関わり合いながら子どもも大人も育ち合う場所。そして、「外でのびのび育てる場があれば」という声を拾い設立したのが、森のようちえん「ぴっぴら」です。

ぴっぴらでは子どもたちがとことん遊び、時にはケンカをしながら多くの人と深く関わることを大切にしています。

パレットヒルズのふもとという立地もあり、子どもたちとよく遊びに行きます。そこには季節によつて違う木の実や果物、水辺にはエビやトンボといった多くの生き物がいる。自然あふれる「宝の山」のようなパレットヒルズが、いつまでもあり続けてほしいと願っています。

その昔、蛇が多く生息していたという言い伝えから「蛇山」と呼ばれていたパレットヒルズは、これまでにたくさんの方たちの協力のもと、植樹事業が進められてきました。この場所からは、鷹栖の町並み・田園風景が一望でき、その奥には大雪山も望むことができます。

パレットヒルズを拠点に活動する団体のひとつに、「パレットヒルズと歩く会」があります。同会は、森林部分を整備し、自然体験の幅を広げようと発足。これまでに、木工体験や鳥の巣箱作り、山道の散策などのイベントを主体となつて実施してきました。自然の中でしか味わうことができない活動



▲パレットヒルズと歩く会主催の「森で遊ぼう」

Takasu Hot NEWS



鷹栖地区住民センターが プレオープン

鷹栖地区住民センターのプレオープン記念式典がセンターのホールで開催され、町民など約200名が参加しました。

平成29年6月から建物や周辺整備などの工事が進められ、今年9月10日に完了しました。11月17日に開催された式典では、テープカットが行われた後、設計のコンセプトや工事概要を説明。アトラクションとして、鷹栖保育園児による歌とたかす吹奏楽団・鷹栖中学校吹奏楽部による合同演奏も披露されました。

迎えた節目 鷹栖さつき苑のセレモニー

社会福祉法人さつき会主催の特別養護老人ホーム「鷹栖さつき苑」開苑30周年記念式典が北野地区住民センターで行われ、町議会議員やボランティア団体など、約120名が出席しました。式典では、長期間にわたりサービス



▲社会福祉法人さつき会 職員集合写真

鷹栖小学校開校120周年

スを利用している利用者や運営に協力しているボランティアの個人や団体を紹介し、感謝状の贈呈を行いました。さつき会の木津真庭理事長は「30年間、さつき苑やなごみの家、ぬくもりの家えんを中心に、発展し、歩み続けてきました。今後も、町民の自立した尊厳のある生活を守るために職員と一緒に努力していきたい」とあいさつをしました。



▲鷹栖小学校120周年記念 「120」を児童で描いた

11月17日、鷹栖町立鷹栖小学校の120周年記念式典が同校体育館で行われ、児童や教員、歴代の校長らが出席しました。

当日は、記念式典実行委員会が学校へ全校児童・教職員の記念写真などを贈呈。児童には記念クリアファイルがプレゼントされたほか、110周年記念以降

の歴代校長・同窓会長・PTA会長の12名には感謝状が贈られました。

鈴木伸行校長は「120年もの間、1年生から6年生の児童が仲間と共に遊び、学び、成長してきました。児童の皆さんは家族をはじめ同窓生や地域の人といった見守ってくれている人への感謝の気持ちを大切にしてください」とあいさつをしました。



◀約280人収容の大ホール



木のぬくもりが
居心地良い図書室▶



◀「つながる庭」から
自然光と緑が取り込まれる



ロビー・ラウンジは
気軽に集える場▶

また、鷹栖町図書室の開所式も行われ、拡張され、蔵書数も増えた図書室は、親子連れなどの多くの町民で賑わいました。

「みんなが集う まちの交流拠点」をメインテーマとした新たな「鷹栖地区住民センター」は、「つながる庭」

がつており、複合施設としてのメリットを生かして地域住民が集い、交流することができる場となっています。

12月から既存建物の解体工事などを行い、来年の8月にグランドオープンの予定です。



▲丹精込めて育てた野菜を収穫するときは、大きな喜びを感じる瞬間

助安さんは、冬期に雪が降り積もる農場を観光に生かすことができないかと思案しています。冬だからできないではなく、冬だからこそ楽しめるアクティビティを企画しているとのこと。モーターパラグライダーや越冬野菜の収穫体験、雪上ドリフト体験などを満喫できる予定です。

この冬、雪の中で思いきり遊べる助安農場に訪れてみてはいかがでしょうか。

有限会社 助安農場

鷹栖町11線11号3番地

TEL 0166-87-3612

営業時間/11:00~18:00

収穫体験を行うには

事前予約が必要です



助安農場フェイスブック

お客様の笑顔こそ こだわり抜く力

がきつかけでした。近年は、ドローンによる空撮を行い、新たな視点でのPRに努めています。このようなつながりの中で、鷹栖町の名前を少しでも広く知つてもらえば嬉しいと話してくれました。また、助安さんは配達する品物の中

に、さりげなく稲穂をひとつ添えたり、品物の下にこっそりとメッセージカードを添えたりと、いかにお客さんに喜んでもらえるかを常に追求しています。

お客様の”おいしい”の笑顔を想像しながら、ひとつひとつ作業を大切にしています。

かざして AR ふるさと通信

▼専用アプリで下の黒カッコ内の画像をアプリでスキャンしてください。▼ 有効期限2019年12月31日まで



「野菜も生き物だということを知ってほしい」。農業を営みながら、農業体験や海外からの農業研修なども積極的に受け入れている助安農場の助安誠二さん（写真左下）にお話を伺いました。

有限会社 助安農場 代表取締役
助安 誠二さん



昭和51年設立の助安農場では、米や野菜、椎茸など、24種類以上の作物を生産しています。施設野菜を取り扱いはじめたのは、平成5年のこと。「子どもたちが野菜を収穫しているときの笑顔からヒントを得て、収穫体験と食育にも力を注ごうと決めました」と助安さんは話してくれました。それ以来、椎茸やキクラゲの収穫体験のお客さんのみならず、農業を学ぼうとする官公庁の職員や大学生も受け入れるようになりました。東京都の大学生を受け入れた際には、「『スーパーでトマト1つを買うにしても、今度からは生産者の顔を思い浮かべると思う」という言葉が胸に響きました。農作業を行って対価を得ることの大変さや喜びを知つてくれたと思います」と助安さん。

他にも農場のPRにも力を入れていて、SNSで日々のできごとを発信しています。農業体験の受入れが増加したのも、子どもたちが野菜を収穫する様子をホームページ上で紹介したこと